

# 南筑後外国語教育研究サークル（サークルHP <http://www.mcec.biz/>） 10月定例学習会報告

南筑後外国語（英語）教育研究サークル  
会長 大川市立田口小学校校長 横大路 智毅

10月21日（土）13:30～筑後市サンコアにて 初めの方も5名迎えて嬉しい会となりました！

## 中学校の部 実践発表 大牟田市立宅峰中学校 堺 将幸 先生 「技能を統合的に活用できる生徒を育てる中学校第1学年外国語科学習指導 ～「聞く」「書く」「話す」活動構成における「振り返りシート」活用を通して

1年生で単元「ALTの先生に『一押しの有名人』を紹介しよう」で、スピーチを行うために、活動構成と「振り返りシート」を工夫された実践の紹介でした。①紹介に必要な文構造の学習、三単現のSの復習、②単元のゴールとモデルを示すために、ALTの先生のスピーチを聞き、どんな内容をどんな言い方で伝えていたかつかませる。③『一押し有名人』の紹介文を書く。④ALTの先生に紹介する。その過程で、内容構成・文法的正解さ・話して伝えるときのポイント等を、教えこむのではなく気づきを生むため、振り返りシートを工夫された実践でした。参加者からは、「原稿を見せてしまうと、そのまま真似してしまうので、「聞く」から「読む」を入れずに「書く」につなぐというやり方を取り入れたい」「生徒に主体的に学ばせ、定着を図るためにも振り返りを大切にしたい」「聞き取りの際に予測を立てさせて聞かせることは大切」「小学校外国語活動ととても共通することが多く納得」「振り返りシート項目を参考にしたい」等の感想が聞かれました。また、スピーチや原稿を評価する際に、正確さをすべてに求めるのではなく、本時でねらうところに絞るなどの配慮など、参考になることがたくさんありました。三単現のSなどは、なかなか定着しない文法項目だと言われています。教師が何度説明しても身につくことは難しく、振り返りで生徒が何度も自分で意識できるようになることで、自己モニタリング、自己修正できるようになるのではないかと思います。

## 小学校の部 大川市立田口小学校 横大路智毅校長先生・柳川市立藤吉小学校 古賀英興教頭先生

9月30日福岡市で開催された文科省調査官直山木綿子先生の講演会から、改訂のポイント、新教材 We Can の説明を横大路校長先生から頂きました。

○学習意欲・自己肯定観の低い日本の子どもの課題を解決するために外国語教育でも取り組む必要があること。

その授業づくりのために次の3つをポイントとして、単元のゴールから Backward Design していくこと。

① 必然性 ②リアリティ ③子どもの意識にあういろいろな表現形式

○中学校新学習指導要領改訂での変化

①語彙が増える 1200語→1600～1800語へ（Hi, friends400語弱→We Can600～700語）

② 文法事項 仮定法・現在完了進行形・感嘆文

語彙の増加、仮定法など難しい文法が入る新学習指導要領で、現在の小5は中3の入試を迎える。その時、新文法、新語彙数に対応できるようにするためには、小学校段階からできるだけ新教育課程に近づけて実施しておく必要がある。新教材「We Can」の基本構成（聞くこと・話すことに十分親しんでから読むこと・話すことの活動に取り組む）や特色、小学校での「読むこと」は、読解ではなく、アルファベットの識別、発音、語句や表現の意味がわかることで「声に出して言える」程度。

移行期間の新教材「We Can」の紹介を、古賀教頭先生にして戴きました。新教材では不規則動詞の過去形が出てきます。リアリティのある話をするのに、過去形は有効、しかし、規則動詞のedは、音声重視の小学校ではわかりにくいから、はっきり異なる不規則動詞から扱うと納得のいく説明でした。単元の一部をワークショップ形式で活動しながら楽しく学びました。



11月の会（11月18日1時半～瀬高中）でも引き続き学習指導要領と「We Can」を紹介します。（文責 松尾）